

センターニュース

信州大学医学部附属病院
 卒後臨床研修センター
 平成24年10月10日(水)発行

暑い夏も過ぎ、今年度も後半に入りました。研修にもだいぶ慣れてきたことと思います。信州医学英語フォーラム、信州若手医師カンファランスに参加した先生方の感想をいただきました。様々な機会がありますが、是非多くの方に参加してほしいと思います。

第2回信州医学英語フォーラムが開催されました！

信州医学英語フォーラムに参加して

配属病院：信州大学医学部附属病院
 1年目 研修医 出田 宏和

9月15日に信州大学医学部附属病院で開催された第2回信州医学英語フォーラムに参加させていただきました。長野県内の研修医が、自ら経験した症例を英語で発表しました。7分間のプレゼンテーション、その後2分間の質疑応答やアドバイスを受け、グループに分かれて改善点を話し合っ、再びプレゼンするという流れでした。プレゼンテーションと質疑応答は英語のみで行われました。Dr. Joel Branchやベテランの先生方に、より良いプレゼンテーションにするための的確なアドバイスをいただきました。私の場合には、はじめのスライドで聴いている人がもっと興味を持つように工夫したほうが良いという事と、一枚一枚のスライドを簡潔にというアドバイスをいただきました。

人前で英語を使ってプレゼンする機会はなかなかないし、英語は全然できないけれど、いい勉強になるかなと思って参加させていただきました。他の発表者の先生達はとても流暢な英語で堂々と発表されていたし、スライドもとても良く練られているものばかりで、ただただ自分の英語力のなさを痛感しましたが、非常に良い勉強になりました。



Hirokazu Ideta



信州医学英語フォーラムに参加させていただきました

配属病院：信州大学医学部附属病院
 2年目 研修医 中村 卓也

第2回信州医学英語フォーラムに参加させていただきました。7人の医師によるcase presentationのあと、ネイティブの先生に直していただき、練りなおしたスライドを再度発表するという流れでした。会は最初から最後までほぼ英語で進行していきました。英語どころか日本語のプレゼンすら慣れていない私にとっては先生方の英語についていくのがやっとで、質問されているのかアドバイスを受けているのかすらわからない状況でした。それでも何とかスライドを訂正する中で、ここは字を詰めすぎなんだとか、こうすればもっと見やすくなるなどのアドバイスを頂き、大変参考になりました。発表も英語も拙いものではありましたが、参加させていただき大変勉強になりました。ありがとうございました。



Takuya Nakamura

第5回信州若手医師カンファランスが開催されました！

未知の疾患とそれに挑んでいく姿勢

配属病院：岡谷市民病院

1年目 研修医 一萬田 正二郎

「多くの医者は診断不明な疾患を見たときに、それを既存の疾患の枠に当てはめてしまう」

川崎先生のこの言葉が、私にはとても印象に残りました。「わからない疾患に出会ったときに“診断不明”としてもいい。川崎病の第1症例は診断不明だった。その後第2の症例がきて、これはと思い、同じような症例がきたら全員受け持って詳細に経過を観察し、それを報告したことで世界中で認知されるようになったのだから」。

4月に医者になって以来、目の前のことに夢中になっていた自分には目の覚めるような講演でした。学生時代には“患者さんの立場に立つて”であったはずが、いつのまにか“診断し、治療をする”ということに集中してなかったか？と感じました。

久しぶりに自分の姿勢を確認できるきっかけとなりました。ぜひこれからもこのような機会を用意していただけたらと思います。

信州若手医師カンファレンスに参加して

配属病院：信州大学医学部附属病院

2年目 研修医 濱野 雄二郎

平成24年8月25日、川崎病の発見者である川崎富作先生の講演があるとのことで参加いたしました。車椅子での講演でしたが、穏やかですがしっかりとした口調で話されており、後ほど年齢を知って驚きました。いやはや・・・

さて、今では小児の common disease を診たときに考慮すべき誰もが名前を知っている「川崎病」ですが、第1例目と出会い、検討を重ねた結果の診断名は「原因不明」としたそうです。「どれにも当てはまらないもの」を無理やり枠に当てはめない、というのは凄い事だと思います。それらしい診断があると患者・医療者ともに安心したいがために飛びつきたく

なることがあると思っています。そこを川崎先生は「分からない」としっかり assessment し、そこから現在の「川崎病」として認知されるに至ったのですが、やはり一筋縄にはいかなかったのか、遠い目をしながら、当時の論争などを語られました。

最後に「医学は厳しく、医療は暖かく」「診察に当たっては、book readingではなくpatient reading」そして「診断は正しくつけることが重要であり、その最終的な診断は自分が納得できる所」そう我々に伝え、まだまだ謎の多い川崎病の第一人者であり続ける川崎先生の講演を拝聴し、日々の診療を見つめ直し真摯にありたい、と気が引き締まる思いでした。

夏季セミナー ～小平奈緒さん講演会「夢をつなぐ、心をつなぐ」に参加して～

編集委員 市野 みどり

彼女は信州大学教育学部卒業で、みなさんご存知の相澤病院所属のスピードスケート選手です。今年の夏季セミナーで講演をしてくださいました。

大学時代と同じ環境でスケートがしたいとの思いから、実業団のオファーを断り、所属先が決まらぬまま大学を卒業、五輪シーズンをニートで迎える覚悟をしたそうです。その後、相澤病院への所属が決まったわけですが、この空白の16日間が強いモチベーションになったそうです。

「環境は与えてもらうものではなく自ら求めていくもの、今は精一杯自分のやるべきことをやるだけ。」

「与えられるのを待つのではなく、自分で考えて行動、必死で頑張ることにより、よい出会いが生まれる。」

ライバルと交流を持ち尊敬することで自分の力を知り、相手を超越する努力をする、人とつながることで自分を高めることができると考えているそうです。

バンクーバーオリンピックでは、500mで惨敗。この時、優勝したのは親友でした。この時も優勝した親友との関わりを通じて、自分を立て直し、1000m、1500mでは入賞、チームパシュートで銀メダルを獲得しました。「金メダルを目指さなければ銀メダルも銅メダルもとれない。」普段の練習では、自分の感じたこと、新発見したこと、指摘されたことを、“技術カルテ”につけているそうです。感覚を言語化することで、感覚が研ぎ澄まされ、自己観察が自分を修正する力となるそうです。そして身体にしみつ

くまで練習をし、考えるとタイミングが遅れるので、試合のときには無心になり言葉にしないそうです。

スケートをやめた後の人生の方が長いと考え、夢であった教員になるため信州大学教育学部に入学したそうです。在学中から長い海外遠征などがあり、講義に出られないこともあったようですが、海外からレポートを送ったり、休日の補講を受けたりして無事に卒業、教員免許を取得したそうです。

毎週外勤に行っている相澤病院でパネルを見ている選手なので何となく身近に感じていたのですが、やはりメダリストは違う！と感じました。かわいらしい容貌から出てくる力強い言葉、謙虚でまじめな人柄・・・何人かの先生が参加されていましたが、皆同様に感動していました。

最後に一つ、「緊張した時の対処は？」という質問に対して・・・「はじめに大きく息を吐いてから深呼吸をします。」



信州医療ワールド夏季セミナーでは講演会の他にグループ討論や診療科見学など行われ、多くの医学生が参加しました。

初の松本ぼんぼん！！

松本で生活するようになって7年目で、初めて松本ぼんぼんに参加しました。当初は参加する友達を見に行っただけなのですが、ついつい踊り始めちゃってました。恥じらいもありましたが、みんなと踊っているうちに楽しさがそれを上回るようになってきました。踊り終わってからの打ち上げも催されて、いつもは話す機会のあまりない多職種の人たちとたくさん話せました。また、来年も参加したいなと思っています。

配属病院：信州大学医学部附属病院

1年目 研修医 小野 元紀



【夏まつり 松本ぼんぼん】
松本の代表する夏祭り。松本中心街を連（グループ）をつくって踊ります。踊りのテーマ曲は一度聴いたら耳に残ります♪



レジナビフェア in 東京に参加しました！

レジナビに参加した感想

配属病院：信州大学医学部附属病院

2年目 研修医 北野 真希子

東京は暑く、町を歩く人も多く、完全におのぼりさん状態で圧倒されましたが…何より、会場に着いた後、学生さんたちの熱心に病院説明を聞く姿、熱い思いにも圧倒されました。それぞれに将来こうなりたいという理想像や、こんなことをしたいという思いがあり、色々聞かせていただいて、自分ももっと頑張らなきゃなと初心に帰ることができました。学生さんたちの出身は様々で、北海道から沖縄まで日本全国の大学の方とお話できましたが、悩んでいることはみんな似ていることが多く、自分も昔同じことを考えていたなと思い、懐かしく思いました。今回の説明会に来てくれた方たちが、将来後輩として一緒に働けたらいいなと思います。最後に、準備・後片付けをしてくださった先生方、事務の方々、本当にありがとうございました。

東京
ビッグサイト



レジナビに行ってきました

配属病院：信州大学医学部附属病院

2年目 研修医 寺田 志洋

先日、東京で開催されたレジナビに参加してきました。自分が学生の時には参加したことがなかったので、どのような雰囲気なのか少し楽しみにしていました。

会場に着いてみたら、参加病院の数に驚きました。そんな中で埋もれないよう、赤いはっぴをきてスタンバイ。学生さんが来てくれるのを待ちました。向かいのブースのとある有名病院に並ぶ学生さんの列を尻目に待つこと数十分…ついに最初の学生さんが来てくれました！曰く、『私、卒業したら生理学の研究がしたいんです！』とのこと。（……研究？そもそも生理学って何だっけ…？）とまどう寺田。その学生さんには一緒にレジナビに参加していた北野さんが上手く説明してくれました。さすが世界のKITANO！信大のブースには十数名の学生さんが来てくれましたが、驚いたのは、来てくれたほとんどの学生さんがかなり具体的に自らの将来について考えていたことです。あのような方々が信州大学で研修してくれたら、長野県の未来は明るい！！そんなことを考えた1日でした。



信州大学は東京・大阪開催のレジナビフェアに計3回参加しました。中でも7月15日（日）東京ビッグサイトにて行われたレジナビは、学生の参加人数も多いとのこと、天野病院長、加藤センター長、森田副センター長、そして研修医の先生2名（北野先生、寺田先生）と事務2名で参加してまいりました。信大病院ブースにはたくさんの医学生に来ていただきました。皆さん真剣に話を聞いてくださったので、先生方も説明に自然と熱が入っておいりました！

定型的な病状を呈する内分泌疾患を見逃さないため

糖尿病・内分泌代謝内科 鈴木 悟

! 今回の講義のねらい

糖尿病、高血圧の患者さんの数%は内分泌疾患が原因です。またCT、エコーの普及で発見されてくる典型的な内分泌症例が最近増えてきていることより、決して珍しい疾患ではありません。

内分泌代謝内科以外の先生にとって重要なことは疾患を発見することです。今回の講義では書物では伝えられないビジュアルな経験知識を、知識量としては少ないが、講義終了後から使用できる実践的なものとしてまとめてみました。

視診を行う前の Tips

他の疾患同様、原因を考えることが重要です。特にありふれたメタボリック症候群等の原因に意識をもっていくことが大前提です。内分泌疾患は、ホルモンの分泌過剰、不足を異常と捉えるため、所見＝病気とは限りません。

! 視診のポイント

1. 顔貌（4ポイント）先端巨大症様、満月様、眼突、浮腫
2. 体型（2ポイント）やせ、中心性肥満
3. 皮膚（3ポイント+触診3ポイント）色素沈着、線条、痣、浸潤感、腋下乾燥感、低温感
4. 甲状腺腫（2ポイント）びまん性、結節
5. 手（2ポイント）親指以外の指を握って爪を隠せるか、振戦
6. 腋毛、恥毛の有無（2ポイント）



【図1】バセドウ病の方の甲状腺腫です。

手を握った母指球くらいの柔らかさでびまん性に触れます。やせた方の場合、胸鎖乳突筋の内縁が見えないことで気がつくことがあります。



【図2】先端巨大症の方の爪を隠していただいた手です。

長官骨の横方向への増大により、関節可動域が制限され、爪が隠れません。症例の約8割に見られます。

しかし、特異度？です。ちなみに受講された先生方の約1割に同様の所見がみられました。今後の検討課題です。

クルズス・セミナー 開催予定

開催日	テーマ	診療科/講師	会場/時間
10月12日	長野県の救急医療とドクターヘリ活動	高度救命救急センター / 望月 勝徳	東病棟9階 会議室 18:00 ~ 18:30
10月26日	サイレントキラーCKDと戦う方法	腎臓内科 / 上條 祐司	
11月2日	女性の腹痛	産科婦人科 / 宮本 強	
11月9日	CPC	病理組織学 / 菅野 祐幸	外来棟4階 大会議室 18:00 ~ 19:30
11月16日	脳卒中の初期治療	脳神経外科 / 未定	東病棟9階 会議室 18:00 ~ 18:30
11月22日	がんのリハビリテーション（総論）	リハビリテーション部 / 畑 幸彦	
11月30日	ナースにまかせっきりにしないための褥瘡知識	形成外科 / 藤田 研也	
12月7日	研修医に不可欠な栄養管理	NST / 未定	外来棟4階 大会議室 18:00 ~ 18:45
12月14日	骨髄移植の流れについて	移植医療センター / 深沢 聡恵	東病棟9階 会議室 18:00 ~ 18:30

日程は平成24年10月10日時点のものです。詳細は院内の掲示等をご確認ください。



クルズス・セミナーの開始時間は
18時です！
遅れずに出席しましょう！



編集後記



今回も多くの方にご協力いただきありがとうございました。8月に担当の患者さんが相次いで急変し、多くの科の先生方に変にお世話になりました。その時に、大学病院で研修する意義について、学生さんとの懇談会でのある先生の「大学病院ほど多くの専門家がそろっている病院はない。」という言葉が何回もよみがえりました・・・

松本ぼんぼんは、私は息子の小学校の連に参加していました。途中、「すごいよ」と人につつかれて見た先には信州大学の赤い法被。写真だけでは伝えられないようなすごい盛り上がりでした。（編集委員 市野 みどり）